

# U.S. Indicators

発表日: 2024年1月12日(金)

## 米国 10-12 月期に需要は再鈍化(12 月 ISM 非製造業)

～12 月はヘッドラインが示すほど急激に減速していない可能性～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:050-5474-7493)

23年12月のISM非製造業景気指数(総合、季節調整値)は、50.6(前月52.7)と前月比2.1%ポイント低下し、市場予想の52.5(筆者予想53.1)を大幅に下回った。また、拡大した業種数は、全18業種中9種(11月15業種)にとどまった。ただし、現在の業況を示す活動指数が高い水準に上昇したほか、雇用がミスマッチによって大幅に低下したとみられ、労働需要は依然強いと考えられることから、ヘッドラインの数字が示すほど、非製造業の拡大ペースは急激に鈍化していないと判断される。

回答者のコメントをみても、企業や業界によってまちまちだが、経済の不確実性、地政学的な出来事、労働力の制約に関連し懸念が広がっていることが指摘されたものの、実際に需要の急減速などを示すコメントはなかった。

非製造業総合指数の構成項目では、活動指数が56.6(前月55.1、前月比+1.5%ポイント)と上昇した一方、雇用が43.3(前月50.7、前月比▲7.4%ポイント)、新規受注が52.8(前月55.5、前月比▲2.7%ポイント)、入荷遅延が49.5(前月49.6、前月比▲0.1%ポイント)と低下した。総合指数への寄与度では、活動指数が前月比+0.38%ポイントの押し上げ寄与となった一方、雇用が前月比▲1.85%ポイントと全体を大きく押し下げたほか、新規受注が前月比▲0.68%ポイント、入荷遅延が前月比▲0.03%ポイントの押し下げ寄与となった。

活動指数が事業活動の堅調さを映じて上昇、比較的高い水準を維持した。また、新規受注は、低下したものの50台を維持しており、非製造業部門の拡大継続を示唆している。一方、雇用、入荷遅延は50を下回った。雇用が拡大縮小の分岐点である50を大幅に下回り、総合指数を大きく押し下げた。しかし、12月の雇用統計では非製造業部門の雇用者数は堅調なペースで拡大を続けたほか、12月のISM統計で雇用の減少した8業種(拡大した業種数が18業種中7業種)のうち雇用統計でも減少した業種は運輸・倉庫のみにとどまっており、他の7業種はミスマッチによる減少とみられ、50割れは一時的な動きの可能性がある。回答者のコメントでは、専門サービス業や人材派遣業では、経済の不確実性と顧客需要の減少という状況の中、コスト削減のため過去数カ月間、レイオフが増加したと報告された。一方、熟練従業員が入社と在宅のハイブリッド型の選択肢を求めて退職しているが、熟練労働者の多くがリモートワークを希望しているため、熟練労働者の採用が困難になっていると指摘された。ミスマッチによる退職の増加や、人員補充の困難さが報告されており、労働需要が依然強いと判断される。

また、入荷遅延は、景気減速、サプライチェーン問題の改善によって、拡大縮小の分岐点である50を下回っていたが、足元で50程度まで上昇し、景気拡大の継続により納入スピードが再び鈍化していることを示した。

サブ項目では、新規輸出受注が50.4(前月53.6、前月比▲3.2%ポイント)と低下し、サービス輸



出の増加ペース鈍化を示した。一方、輸入は49.7（前月53.7、前月比▲4.4%ポイント）と低下し、サービス輸入の減少を示した。

インフレ環境では、仕入価格指数が57.4（前月58.3）と小幅低下にとどまり、インフレ圧力が依然強いことを示した。労働コスト等の継続的な上昇のほか、電気部品等の上昇によって押し上げられ、価格指数が高止まりした。また、供給不足の分野として、変圧器、労働が挙げられた。

12月に拡大した業種数は、18業種中9業種と11月の15業種から大幅に減少した。拡大した業種は、強い順に農林水産業、宿泊・飲食サービス、医療・社会支援、運輸・倉庫、その他サービス、公益、小売業、専門・科学・技術サービス、公的部門（下線は拡大・縮小が2カ月以上続いたことを示す）。一方、縮小した業種は、不動産・賃貸・リース業、芸術・娯楽・レクリエーション、卸売業、鉱業、情報産業、教育サービス、企業向けサービス、建設業、金融・保険の9種（11月3業種）に増加した。

米国経済全体の景気動向を示す「ISM総合景気指数（非製造業景気指数と製造業景気指数の合成）」は、12月に50.3（11月52.1）と低下し、景気拡大ペースの鈍化を示した。四半期では、10-12月期に製造業が46.9（7-9月期47.7）と4-6月期の46.7を小幅下回ったほか、非製造業が51.6（7-9月期53.6）と4-6月期の52.0を小幅下回った。

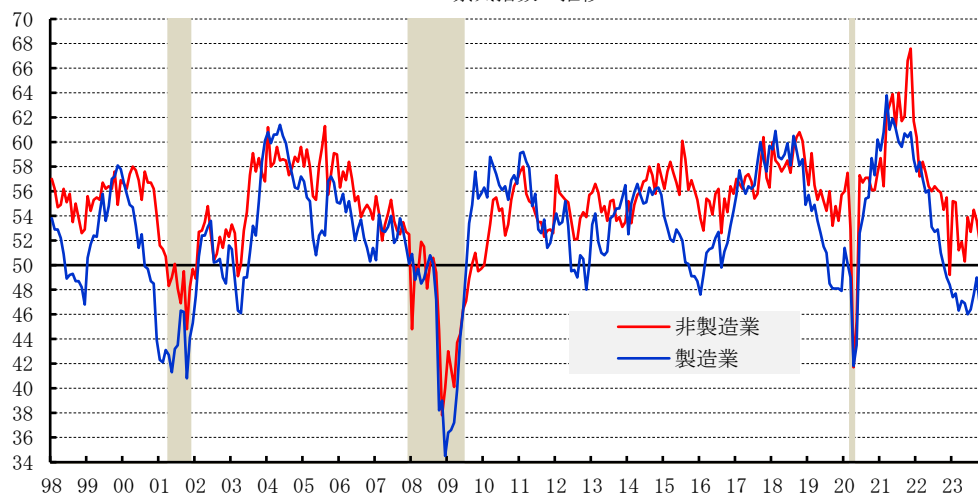
この結果、10-12月期のISM総合景気指数は、51.2（7-9月期53.0）と4-6月期の51.5を小幅下回っており、10-12月期の国内最終需要が4-6月期の前期比年率+2.1%を若干下回るペースに減速したことを示している。

## ISM非製造業景気指数

	総合指数								
	活動指数	新規受注	雇用	入荷遅延	受注残高	仕入価格	新規輸出受注	在庫変動	
22/12	49.2	53.5	45.2	49.4	48.5	51.5	68.1	47.7	45.1
23/01	55.2	60.4	60.4	50.0	50.0	52.9	67.8	59.0	49.2
23/02	55.1	56.3	62.6	54.0	47.6	52.8	65.6	61.7	50.6
23/03	51.2	55.4	52.2	51.3	45.8	48.5	59.5	43.7	52.8
23/04	51.9	52.0	56.1	50.8	48.6	49.7	59.6	60.9	47.2
23/05	50.3	51.5	52.9	49.2	47.7	40.9	56.2	59.0	58.3
23/06	53.9	59.2	55.5	53.1	47.6	43.9	54.1	61.5	55.9
23/07	52.7	57.1	55.0	50.7	48.1	52.1	56.8	61.1	50.4
23/08	54.5	57.3	57.5	54.7	48.5	41.8	58.9	62.1	57.7
23/09	53.6	58.8	51.8	53.4	50.4	48.6	58.9	63.7	54.2
23/10	51.8	54.1	55.5	50.2	47.5	50.9	58.6	48.8	49.5
23/11	52.7	55.1	55.5	50.7	49.6	49.1	58.3	53.6	55.4
23/12	50.6	56.6	52.8	43.3	49.5	49.4	57.4	50.4	49.6

(出所) ISM

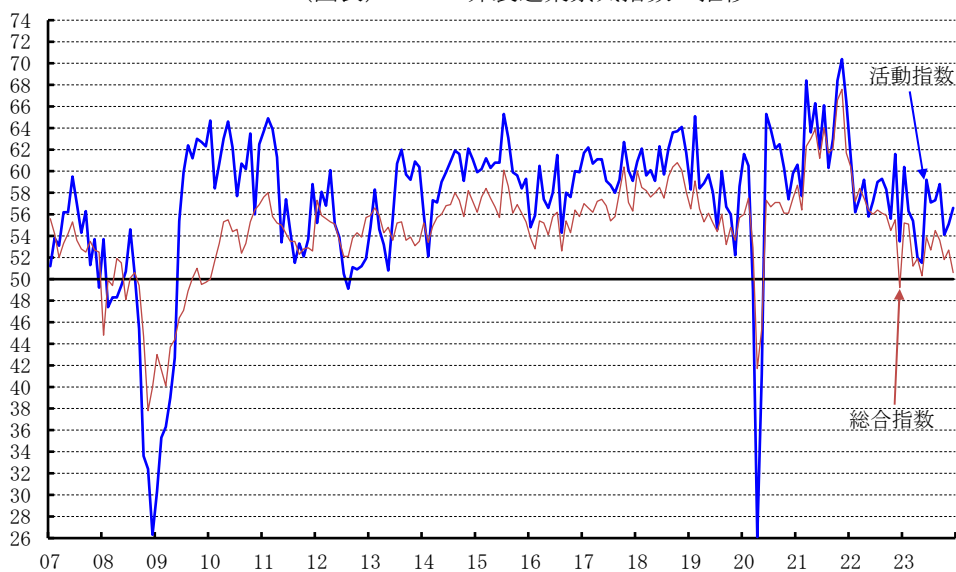
ISM景気指数の推移



(出所) ISM (注) シャド一部は景気後退期

(%)

(図表) ISM非製造業景気指数の推移



(出所) ISMデータより作成

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

